



イタリア在住中、自宅リビングにて



ブルガリアのヴァルナ市役所内のホールで開催された声楽講習会のコンサートに参加



2011年、青島（チンタオ）に招待され、「新春中日友好音楽会」に出演



韓国の大学に招かれ、「韓日友情コンサート」に出演



2020年、「とちぎ未来大使」のメンバーとして「県民の歌」動画収録に参加した際、福田富一知事と。



岩舟町で開催されたコンサート。榎木の名唄「円仁」を題材としたオペラに出演



2002年に帰国し、東京都内の劇場にてオペラ「トスカ」に出演



オペラブルカントジャパン代表／  
バリトン歌手

Tadataka Ishida

石田 忠隆さん

profile

1963年東京都生まれ。宇都宮東高等学校卒業。東洋大学経営学部商学科を卒業後、宇都宮大学教育学部小学校教員養成課程に学ぶ。1992年よりイタリアの国立音楽院コンセルヴァトリーオ・アッリーゴ・ボイトに入学し、本格的に声楽を学ぶ。イタリアを中心に、東西ヨーロッパ各地において演奏会や歌劇に多数出演。2002年に帰国し「オペラブルカントジャパン」を設立。栃木県日中友好協会理事。ユニ音楽国際交流協会事務局長。2009年より「とちぎ未来大使 県民の歌広報官」を務める

“歌が好き”という気持ちが人生の原点。

音楽を通じた草の根活動で、国際交流と地域の文化振興を図る

バリトン歌手としてヨーロッパで数多くのオペラやコンサートに出演し、帰国後も国内外で活躍中の石田忠隆さん。学生時代からオペラが好きで、海外オペラの来日公演に足繁く通ったというが、日本国内の音大を経験せず、単身イタリアに渡り、ゼロからの出発で世界に通用する歌唱法を体得したという異色の経歴の持ち主だ。

「イタリア語は歌詞や楽譜に書いてある言葉の意味が理解できる程度で、会話も挨拶が交わせるレベル。しかし、どうせ学ぶなら本場で始めてみたい」という直感を信じ、渡伊を決めました。イタリアは、音大やコンクールなど過去の実績がなくても、実力が認められたらすぐに仕事をもらえる世界ですので、現地に住んで約1年後に知人から仕事の依頼をいただきました。国立音楽院に入学後も、先生から現場で歌うことを勧められ、そこからヨーロッパ各地で演奏会や歌劇に数多く出演しました。13年間の滞在期間中、ヨーロッパだけでなくアジアの仲間たちと歌を通して親好を深め、切磋琢磨し合えたことが大きな財産です」。

順風満帆と思われた石田さんのイタリア生活にも、大きな壁があったという。一番苦労したのは、日本で二重国籍取得が認められておらず、EUの国籍がないと正式に大きな劇場の舞台に立てなかったことです

ね。私が舞台に立つと、劇場や音楽事務所などに罰金などのペナルティが科せられるため、事務所から国籍変更を促されることもありました。生まれ育った日本の国籍を捨てることに抵抗があったので、結局日本国籍のまま仕事を続けました。日本は、世界でわずか50カ国ほどの二重国籍を認めていない国の一つだ。石田さんの声種は、バリトンの中でも直接的な感情表現が重視される「ヴェリズモ・オペラ」に適しており、当時もその劇的な表現ができる歌い手が不足していたという。出演依頼があるにも関わらず、国籍が理由でそれに応えられないもどかしさと戦う日々だった、と石田さんは当時を回想する。

現在は栃木県を拠点に演奏活動を行うとともに、後進の育成に情熱を注ぐ石田さん。コロナ禍で音楽活動の制限を余儀なくされる中、未就学児から90代まで、音楽経験を問わず、誰でも気軽に音楽を楽しむことができるようなコンサートを毎年開催している。また、チャリティーや国際交流を目的とした場を提供するなど、国際文化交流の振興にも尽力している。

「歌うことが好き」という気持ちに正直に、まっすぐ突き進んだ結果、今があると感えています。音楽的な技術だけでなく、音楽を通じて心が豊かになる場を提供し、皆さんの心に何かをもたらすことができれば幸いです」。